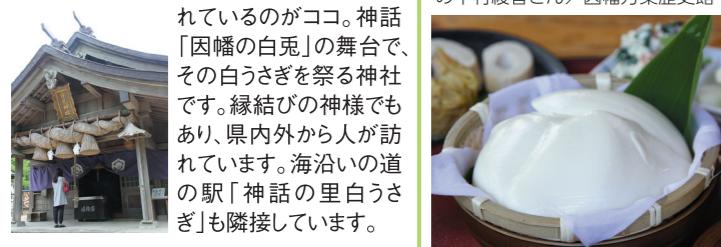


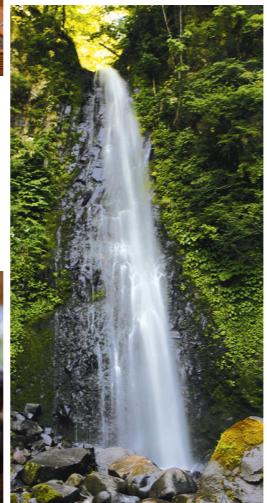


注目 白兔神社

鳥取西道路の開通後、同じく東西に走る国道9号線の渋滞が緩和され、再注目されているのがココ。神話「因幡の白兎」の舞台で、その白うさぎを祭る神社です。縁結びの神様でもあり、県内外から人が訪れます。海沿いの道の駅「神話の里白うさぎ」も隣接しています。



(写真右上から時計回りに)はわい温泉の旅館千年亭の露天風呂／雨滝／「とうふ工房 雨滝」の「できたて豆腐膳」は1380円／倉吉白壁土蔵群／「地元の米を使っています」と、白壁土蔵群にある「元帥酒造本店」の中村綾香さん／因幡万葉歴史館



企画・制作／中日新聞広告局
（有料・要予約）でき、7月20日
（午前9時～午後4時）
（料金：大人1,380円、子供690円）
（JR鳥取駅北口改札外）



企画・制作／中日新聞広告局

鳥取西道路の開通でグンと近くなった！

鳥取県中部まで行ってみよう

鳥取砂丘がある県東部と、懐かしい風情漂う倉吉エリアが人気の県中部。鳥取県内を無料で通行することのできる高速道路の整備が進む中、両地域を結ぶ無料の高速道路「鳥取西道路」が先月全線開通、県中部へのアクセスもぐっと楽になりました。そこで、訪れた中から東部・中部それぞれの夏のお勧めスポットをピックアップして紹介します。



4時間15分で鳥取県中部へ

全線が開通した鳥取西道路は、同県の東部を縦断する鳥取自動車道の終点・鳥取ICから県東部の西の端、青谷ICまでの東西区間です。新たに開通したのは距離にして20km弱ながら、所要時間は大幅に短縮。名古屋方面から、4時間15分でアクセスできます。

鳥取西道路を活用して、同県の中部まで足を延ばそうという今回。その目的を果たすべく向かうのは、終点の青谷IC直結の山陰道（通行無料）を進み、はわいICから内陸ルートを取る、倉吉白壁土蔵群です。白漆喰の壁に山陰地方特有の赤い石州瓦の屋根を施した、江戸・明治期の土蔵や商家の残る町並みは風情たっぷり。江戸末期から続く造り酒屋の軒先には、新酒の完成を知らせる杉玉が吊るされ、特産品などがそろう土産物店は、かつてしよう油の仕込み蔵でした。聞けば、夏は浴衣がレンタル（有料・要予約）でき、7月20日

（土）には飲食店や展望台を有する一角「打吹回廊」がオープンするとか。地区全体は1時間程度で往来できるので、思い思い散策に興じてみましょう。倉吉を後にし、次は湖畔の温泉地はわい温泉を目指します。鳥取観光では温泉も欠かせない楽しみで、ここは東郷湖の湖底に源泉を持ち、全ての湯宿が源泉かけ流し。朝は伝統のシジミ漁も見られます（日～金曜の午前7時）。ちなみに温泉名は、現在の湯梨浜（ゆりはま）町となる合併前の羽合（はわい）町に由来しているそうです。

県東部では、涼が取れるスポットへ

温泉で英気を養つた翌日、再び鳥取西道路を使って県東部へ。中間地点にあたる浜村鹿野温泉ICの隣地では、明日6月30日（日）に道の駅「西いなば気楽里（きらり）」がオープンを控え、にわかに活気づいています。

県東部では、因幡万葉歴史館が外せません。というのも鳥取は万葉集の最後の歌が詠まれた地。万葉集関連の展示を行っている同館は、新元号・令和の開始以来、押しも押されもない人気スポットなのです。館内で涼を取りつつ、万葉の時代に思いをはせてみませんか。

涼を取るといえば、鳥取市国府町の雨滝（あめだき）が一押し。溶岩の切れ目から水が湧き出しているというこの滝へは、駐車場から遊歩道で行きます。頭上40mの滝口は、腕を伸ばして比べた手のひらよりも小さく、流れ落ちた水はあふれ出んばかり。たわむれるようにマイナスイオンを浴びたいものです。

◆問い合わせ

名古屋方面から→（名神・新名神高速→中国道）→作谷JCT→（鳥取自動車道→鳥取西道路→山陰道）→はわいIC下車、倉吉市へ（約370km）

鳥取県産業・観光センター（中区栄4-16-36 久屋中日ビル5階
電話0522-2602-5411）